**＜6回目のお話＞　聖霊様について**

◆**代表者による祈り**

◆**分かち合い**

信仰生活を送りながら、聖霊様を意識したことがありましたか。聖霊様はどのような方だと思いますか。どのように自分の人生に働いて下さったでしょうか。

◆**御言葉を開いてみましょう**

ヨハネ16:13-14

◆**御言葉を知る**

聖霊様は、救われた私たちの中に住まわれ、永遠にともにおられ、私たちの信仰と人生全般に関与されます。だから聖霊様を正しく知り、体験するとき、私たちの信仰生活はさらに豊かになります。今回は、聖霊様がどのような方か、そして聖霊様を知ることによって私たちはどのような恵みを受けられるかについて考えてみます。

**1．三位一体の神様の、一つの位格である聖霊様**

聖霊様は、三位一体の神様の一つの位格であり、父、子とともに同じ本性を共有しておられます。だから、聖霊様は何らかの力や道具ではなく、三位一体の神様の他の二つの位格と相互に交わりを持つ、人格的存在です。また、神は愛なので（ヨハネの手紙Ⅰ4:16）、聖霊様も愛であり、父なる神様と子なるイエス様を愛の中で一つにされます。三位一体の神様は、聖霊様の愛によって、父なる神様と子なるイエス様が一つとなって存在されます。

聖霊様は、三位一体の神様だけがなされることである、創造と救いのみわざを行われました。創造の働きにおいて、聖霊様は神が天地を創造されるとき、暗やみと混沌に覆われた地を動きながら、そこにいのちを吹き込まれ、秩序を打ち立てました（創世記1:1-2）。救いの働きにおいても、聖霊様は、救い主イエス様の誕生に関与され（マタイ1:20）、公生涯の間ともにおられ（マタイ3:16）、イエス様をそのちからにより甦らせました（ローマ1:4）。聖霊様は今、この瞬間にも、失われた魂を救われ、それらの者に臨まれて救いの保証となって下さいます（エペソ1:13）。また、聖徒たちに、イエス様が再臨されて万物を回復される時を備えさせます（ローマ8:16-18）。

**2．聖霊様の神性**

聖書は、聖霊様が神性を持っておられる神様だということをはっきりと述べています。では、聖書が語る、聖霊様の神性とその意味とは何でしょうか。

第一に、聖書は「とこしえの御霊」と述べています（ヘブル9:14）。「とこしえ」とは、始まりも終わりもなく、永続的に存在するという意味で、ただ神様にのみ存在する属性です。とこしえなる聖霊様は、朽ちて無くなってしまう全ての被造物とは異なり、永遠に存在されます。このような聖霊様の永遠性によって、救われ、神の子どもとなって聖霊が内住されるようになった私たちは、永遠のいのちを受け取ることになりました。

第二に、聖書は「御霊はすべてのことを探り」と述べています（コリントⅠ2:10）。聖霊様はすべてを探っておられるため、人間の知識の及ばない、神の深みにまで及ばれます。ですから、神様がどういう方なのか、神様が私たちにどんな恵みを下さったかを知るには、聖霊様に頼らなければなりません（コリントⅠ2:11）。また、聖霊様は全てを知っておられるので、私たちは聖霊様を欺くことはできません（使徒5:9）。ですから、私たちは毎日聖霊様を意識し、正直かつ誠実に生きなければなりません。

第三に、聖書は「御霊には力がある」と述べています（ルカ1:35）。人間は弱く、その力には限界があります。よって多くの人々は予測不能な険しい世の中でつらい毎日を生きていきます。霊的ちからが必要な主の仕事をするとき、人々は自分の弱さをよりはっきりと実感します。しかし、全能なる聖霊様がともにおられれば、私たちは力を受け、教会の徳を建て上げる誠実な働き人、また力ある福音の証人として立てられるようになります。

第四に、聖書は「御霊はどこにでもおられる」と述べています（詩篇139:7-8）。「どこにでも」というのは、神様にのみ存在する属性です。どこにでもおられる聖霊様は、私たちがどこに行こうとも変わることなくともにおられます。私たちに力が必要であればいつでも力を下さり、知恵が必要であればいつでも知恵を下さり、慰めが必要であればいつでも慰めて下さいます。だから私たちは変わることなく私たちの傍におられる聖霊様を常に信じ、頼らなければなりません。

以上に見たように、聖霊様はとこしえなる方で、すべてを知っておられる力ある方で、どこにでもおられる神様です。私たちは、このような神であられる聖霊様を信じ、礼拝しなければなりません。何よりも、神様である聖霊様が私たちの中に住まわれることで、私たちに神様のいのちが与えられたことを忘れてはなりません。

**3．聖霊様の人格性**

聖霊様は神性を持っていると同時に人格を持っておられます。だから聖霊様は知性、感情、意志を持っておられ、このような聖霊様の人格性によって私たちは聖霊様と人格的な交わりを持つことができます。

聖霊様は「知性」を持っておられます。ところが、聖霊様は全てを知っておられるから、私たちが知らないことはもちろん、私たちよりも私たちのことをよくご存じです。だから聖霊様は、どのように祈ればいいかわからないとき、私たちの状況を細かく考えて下さり、私たちのためにとりなして下さいます（ローマ8:26-27）。

聖霊様は「感情」を持っておられます。だから私たちが罪を犯すとき聖霊様は悲しまれ（エペソ4:30）、逆に私たちが迫害に打ち勝ち信仰の道を行くとき、福音が伝えられて多くの魂が主へと立ち返るとき、喜ばれます（使徒13:52、テサロニケⅠ1:6）。私たちは毎日信仰の道を歩み、福音伝道に努めることで、聖霊様が私たちの中で喜ばれるようにしなければなりません。聖霊様が喜ばれるとき、私たちも喜ぶことができ、いのちあふれる人生を送ることができます。

聖霊様は「意志」を持っておられます。聖霊様の意志に応じて私たちには賜物が与えられ（コリントⅠ12:11）、働きの方向も決まります（使徒16:6-10）。だから私たちは、聖霊様がそれぞれに与えられた賜物は何であって、私たちがどのような方向で主の仕事をすることを願っておられるかを考えなければなりません。聖霊様の意志に従うとき、私たちは効率的に教会に仕えることができ、働きの実ももっと豊かに結ぶことができます。

◆**祈り及びとりなしの祈り**

1．聖霊様の導きの中で、神様をもっと知っていけるよう祈りましょう。

2．どこに行っても、聖霊様に頼るように祈りましょう。

3．信仰の道を歩み、福音を伝えることで、聖霊様を喜ばせる聖徒になるよう祈りましょう。

4．隣の人と祈りの課題を分かち合い、ともに祈りましょう。

以上の内容はヨイド純福音教会区域礼拝テキストから抜粋、追加、翻訳、再構成したものです。